

詩編 12 篇の黙想：不信者のただなかで、主は、立ち上がって下さる（人の言葉と神の言葉）

（2020 年 5 月 2 日分 TM）

人の言葉は考えていることと食い違えます。嘘をつくのは人間の特性でしょうか？「嘘発見器」というのを聞いたことがあります、それを切り抜ける嘘つきがいたらどうするのでしょうか。人の言葉は危ういものとして「神の言葉で」受けるより仕様がありません。

・ですから、12 編は、「主よ、お救い下さい（ホヴォシアハ ヤーシャーの命令形 「広がりを与える」の謂）で始まります。私はどのような言葉を発するのでしょうか？今日の最初の言葉はどのような言葉でしたか？この切なる願いに応答して、6 節では、主自らが立ち上がり「救い」を与えよう、安全の場所に（ベヤーシャー）置こう」と言われます。主はその「仰せ」（語ることアーマール）を必ず守り、とこしえに至るまで、信仰者を「見守ってくださいます」と歌われます。

・不信者に囲まれて： 信仰をもって歩む者は古今東西少数者です。キリスト教人口は世界一であり、2010 年時点でキリスト教徒 22 億(31.4%)、イスラム教徒 16 億人(23%)、ユダヤ教を入れて、55%の人が唯一の神を信じているのです。しかし、現在は形ばかりで、欧米キリスト教国をはじめ、まさに神の仮説抜きで人と世界の現実を理解する人が支配的です。私もどこか同じ基準で生きていないでしょうか？私たちは日々の生活の中で、「主の慈しみに生きる人」（2 節）、「信仰のある人」（2 節）は絶え、消え去り、語ることを考えていること、行動することとが「ズレている」人々に取り囲まれています。粉飾され、自信過剰な言葉なしでは落伍者になってしまうような社会です。誠意など無用で、「偽り」、「滑らかな唇」、「二心をもって」語る者、「威張って語る舌」（4 節）、自らの想い、欲望を主とする者（5 節）が、力を振るっています。彼ら彼女らは「主に逆らう者」であり、自分「勝手にふるまう」（9 節）です。そして、財力、権力、愚劣な欲望以外の人間らしさなどなく、むしろ、「卑しむべきことがもてはやされている」時代です(9 節)。自分も含めてそうなのではないか黙想しましょう。

・虐げられている信仰者： 道徳・倫理的基準の消滅、価値観の浮遊現象の中では、力ある者、経済的に豊かな者たちが自分勝手に振る舞い、人々を支配し、その抑圧のために「虐げに苦しむ者」「呻いている貧しい者」（6 節）がいます。経済格差が拡大し、世界の富裕者 8 人の資産が下位 50%の所得と同じであり、昨年今年 1 月のダボス会議の発表では、世界の富豪 26 人が 150 兆円の資産を持ち、人口の半数の貧困層 38 億人の資産と同額であるといいます。1%の富裕層が 99%を犠牲にしているのです。その他、社会的、文化的、性的差別もあり、まさに、「主の慈しみに生きる人は絶え、信仰のある人は消え去り、人は友に向かって偽りを語り、滑らかな唇と、二心をもって話す。」の通りです。また、「威張って語る舌」がかえってもてはやされます。しかも、信仰者は絶望したり、開き直ったりせず、信仰と祈りを持って生きねばならないし、生きることができます。

・主なる神の宣言・約束の確かさ：

道徳的・倫理的退廃の中で、主は言われる。「虐げに苦しむ者のために、今、わたしは立ち上がり、彼らがあえぎ望む救いを与えよう。」(6 節) イザヤ 33:10 参照。主なる神、「あなたは、その仰せ（言葉）を守り（シャーマル 保存する、見ていてくれる）、わたしたちを見守ってくださいます（ナーツアル）です！

・主の仰せは清い：主なる神の宣言・約束・言葉は人間の嘘・偽り、不純とは違い、「清い」（テホロート）。高熱で銀から不純物を取り去った銀のように、7 度も精錬された銀のような純度で輝いていると言います。金属の精錬過程をイメージし、不純な私たちが清められることを想像しよう。